

やまじょう

旧山上宮坂製糸所事務所・繰糸工場棟・ 再繰工場棟・居宅

～製糸業をけん引してきた誇り～

◆製糸業を支えた中規模製糸場

山上宮坂製糸所は日本製糸業をけん引してきた多くの中規模工場の一つであった。明治7年に創業して以来、大正～昭和の全盛期、さらに戦後の復興期まで、岡谷の中規模工場として長きにわたり製糸業発展を支えてきた。

◆工場体系を残す唯一の遺産

この敷地内には、ほかにも乾繭場、寄宿舍などがあった。目の前の一連の工場体系から、従業員の日常生活が浮かんでくるようである。

◆諏訪中の人が見に来た「櫛御殿」

明治26年～27年に建てられた居宅は塩嶺の持ち山から切り出した櫛が使われており、「櫛御殿」と呼ばれていた。鉄平石葺きの屋根、武田菱がかたどられたすずめ踊りなど特徴的な諏訪地方の住宅建築が残り、見る者を圧倒する。



旧山上宮坂製糸所。その左側に繰糸及び再繰工場棟が残されている。